

区長所信表明(項目)

- 1 はじめに
- 2 文化・観光について
- 3 まちづくりについて

- 4 子育てについて
- 5 教育について
- 6 山形県村山市との友好都市提携について
- 7 平成19年度決算について
- 8 補正予算について



一般質問

9月24日の本会議において、区長・教育長に対し、各会派の代表7名による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。



おおた まさひさ 太田 雅久 (台東区議会自由民主党)

防災対策について

**問** 災害時の情報システムの復旧は、自治体運営上、最優先すべきである。現在の情報システムのバックアップは、特に重要なデータ以外は不十分であり、再度検討し、強固なバックアップ体制を構築すべきと考えるがどうか。区として、災害時に最短で業務を復旧させるためのBCP(事業継続計画)の策定について、いつ頃着手するのか。**答** 災害など不測の事態に備え、台東区情報セキュリティポリシーに基づき、対応しています。情報システム業務を継続させるための保管方法の見直しを図り、一層の安全対策を強化します。BCPの策定については、都が策定するBCPとの整合を図り、早期に着手します。**問** 都・自衛隊を含む官公庁と連携した本格的な「台東区防災訓練」を早急を実施すべきと考えるがどうか。訓練をシステム化し、最低でも年1回は実施すべきと考えるがどうか。**答** 都や消防署、警察署など防災関係機関の協力を得て、来年1月を目途に、初動期における災害対策本部機能の連携訓練を実施します。これらの訓練を毎年、実施、検証することにより、万全な初動態勢の確立に努めます。**問** 木造住宅密集地域である谷中で、安心・安全に暮らすために、谷中コミュニティセンターの防災機能を充実させた、防災センター建設事業のスピードアップが必要と考える

がどうか。**答** 災害に強いまちづくりに向け、基礎的な調査を実施し、防災機能の充実を含めた、谷中コミュニティセンターや防災広場等のあり方を検討し、着工に向け、引き続き努力していきます。

まちづくりについて

**問** 都立上野忍岡高等学校跡地と旧台東中学校跡地との用地の交換について、次の3点を伺う。①旧台東中学校跡地の賃貸借契約では、都への譲渡が条件と聞いているが、事実か。②都からの申し出を受け、庁内で検討していると聞かすが、進捗状況はどうか。③用地の交換について、いつ頃までに結論を出し、交換するとしたらいつか。**答** ①協定書では、将来的に都が取得することを前提とし、都に建物及び敷地の権利が移転するときに貸付期間が終了することとなっています。②土地委員会や公有財産管理運用委員会を開催し、長期総合計画や行政計画等を踏まえ、全庁的に検討を進めています。③地域や関係団体の意見等を勘案し、今年度中に結論を出し、都と調整を図ります。**問** 浅草通りシンボルロード整備について、次の3点を伺う。①地元との意見調整はどの程度進んでいるのか。②本格的な着工に至るのは、いつ頃になるのか。③シンボルロード整備事業は、都の事業であるが、区として地域・まちづくりの活性化にどのように結び付けていくのか。**答** ①都と調整案を作成し、沿道の皆様を中心とする地元の理解を得たところです。②現在、都は、来年度の予算要求を行っている聞いています。区としても、来年度の着工を働きかけていきます。③新たな地域の観光資源を発掘するとともに、回遊性の強化等による地域の活性化を図ります。



こうの じゅんのすけ 河野 純之佐 (台東区議会区民クラブ)

自転車の利用促進について

**問** ①国際通りの自転車通行帯は、自転車が放置されているなど、スムーズな走行が出来ない。対策が必要ではないか。②浅草通りに整備が予定されている自転車通行帯は、どのように運用していくのか。駐輪場の整備が必要ではないか。③区道にも自転車通行帯を設置すべきではないか。**答** ①放置自転車の撤去をするなど、環境整備に努めます。②都に働きかけ、駐輪場が整備できるよう努力します。自転車通行帯については、自転車のスムーズな通行の確保に向けて努力します。③地元町会等と協議、連携し、モデル通行帯の設置を検討します。**問** 自転車通行帯が整備され、自転車の需要が高まる時に、総合的なビジョンや全体計画を作り、環境に良い自転車利用の促進を積極的に進めるべきではないか。**答** 具体的な対策について調査検討し、本区が早急に取り組

むべき施策の方向性を明らかにしていきます。

イベントについて

**問** 本区の代表的なイベントについて、どのような評価をしているのか。さらなる誘客にはイベント内容の見直しが必要と考えるが、助成金等の支援体制も含め、所見を伺う。**答** 日本を代表する行事として定着しているものもありますが、観客数が伸び悩んでいるものもあると認識しています。今後も、一層の誘客を促進するイベントの実施に向け、事業改善を図るとともに、適切な支援に努めていきます。**問** 本区に与えるイベントの経済効果を示すことが必要と考えるがどうか。**答** イベントでの観客の消費額は、推計を行っている事業もありますが、今後は、マーケティング調査の項目や実施方法等を工夫し、イベント実施による経済的な効果の把握に努めます。**問** 誰もが楽しめる参加型イベントの実施は、今後ますます重要になると考える。今後の方向性について伺う。**答** 人と人との繋がりを広め、支えあう地域社会の構築に大いに有用と考えます。今後とも、より効果のあるイベントのあり方を鋭意検討し、実施します。



こさか よしひさ 小坂 義久 (台東区議会公明党)

携帯電話リサイクル推進について

**問** 貴重な資源であるレアメタルの安定供給を確保するため、使用済みの携帯電話の適切な処理と資源の回収について、区民に周知すべきと考えるがどうか。**答** 環境省では、携帯電話などの小型電気電子機器類のリサイクルを促進するため、平成21年度からモデル回収事業を実施する方針です。都では、協議会を立ち上げ、業界団体と共同で、具体的な検討を開始したところです。区では、国や都の検討状況を見ながら、使用済み機器の回収の必要性を周知するとともに、資源分別用の啓発冊子を作成するなど、意識啓発に努めます。

高齢者対策について

**問** ひとり暮らしの高齢者が増えている中、高齢者の日常生活を支援するサービスが必要と考える。昨年の第3回定例会で、高齢者身の回り

応援事業を提案したところ、日常生活の支援、見守りネットワークとの連携の観点から研究していくとの答弁があったが、その後の進捗状況と、高齢者支援について伺う。**答** 高齢者身の回り応援事業については、社会福祉協議会で実施している家事援助サービス事業や、ボランティアの状況等も踏まえ、関係部門で協議を進めています。他区で実施されている外部委託の手法も含め、具体的に検討し、きめ細かい施策を展開します。**問** 高齢ドライバーによる事故件数が増加している要因として、免許保有世代の高齢化が指摘されている。そこで、次の3点を伺う。①高齢者の事故の実態の把握と、事故防止の取り組みをどのように行っているのか。②高齢者のための「いきいき運転講座」など、交通安全運動が必要と考えるがどうか。③運転免許を自主返納した高齢者に対し、身分を証明する写真付住基カードの発行手数料の免除などの支援事業を実施してはどうか。**答** ①区内警察署と連携を図り、実態を把握しています。高齢者の事故割合は増加傾向にあり、交通安全運動などで事故防止に努めています。②「老人クラブ指導者研修会」等の場において、交通安全教室などを開催しています。③警察署と連携を図り、自主返納された方に対する、区独自のサポートも含め、高齢者の交通安全対策に有効な手段を検討します。